

地場も一歩



新規入場者教育の動画でCCUSの取り組みを伝えている

小川工業（埼玉県行田市、小川貢三郎社長）は、約1年前にCCUSの全面活用に踏み切った。円滑な運用に向けて業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）化を手掛ける本社部門がバックアップしながら、運用フローの整理や技能者の教育活動などを進めている。同部門ではCCUS関連業務にとどまらず、DXで建設生産プロセス全体を効率化する未来を描く。

同社は早くから直轄工事でのCCUS活用に取り組んできた。ただ、それ以外の現場では「モデル工事でない限りCCUSに全く触ったことがない人がほとんどだった」（管理本部DX事務局の仙田啓太主任）という。CCUSの普及拡大に向けて国が取り組みを進める中、同社も2023年4月から全面活用に踏み切った。

CCUSの円滑運用に向けて他の建設会社からの問い合わせにも対応している。就業履歴の蓄積状況の確認などは建設ディレクターを務める女性社員が支援する。担い手確保のため以前から女性が活躍できる職場づくりに力を入れてきた同社は、建設ディレクターの女性社員を積極的に登用し、効率的に現場運営できる体制を構築した。工事関係書類などはクラウド上で一元的に管理。夫の転勤で現在は広島県に住む女性社員も、建設ディレクターとしてリモートで鹿児島県内の現場管理業務を支えている。

CCUSの円滑運用に向けて中

DXで生産プロセス効率化

作業フローについては、CCUSの運用に関する事務作業が煩雑にならないよう、それぞれが担う役割を明確化した。案件の受注後は事業部長が専用フォームに案件を登録し、現場職員がさらに詳細の項目を入力する。受注案件を就業履歴蓄積アプリケーション「建

レコ」に登録する作業は建設ディレクターが手掛けるといった流れになる。仙田氏は建設ディレクターが担う役割について「時間外労働の上限規制の適用を念頭に、現場の業務を少しでも減らして全体を標準化できるようにしている」と説明する。

技能者が携帯電話から特定の番号に発信することで入退場を記録できるコムテックスの「キャリアリンク」も活用。住宅工事などリーダーの設置が困難な現場でもCCUSが活用できるように体制を整えた。

DX事務局はCCUSの運用手続きにとどまらず、今後も現場業務の効率化につながる取り組みを入れる。仙田氏も入社後は長く建築の現場を担当。こうした経験を踏まえ、クラウド化やペーパーレス化、AI（人工知能）を活用して工事写真を整理する仕組みなどを導入し、同社の生産性向上を後押ししてきた。仙田氏は「現場職員の手助けになるようなツールを探していきたい」と、さらなるDX推進に意欲を見せる。

技能者が自身の能力・経験に応じて適正な処遇が受けられる環境を整備し、建設業の担い手確保につなげるインフラとなる建設キャリアアップシステム（CCUS）。6月末時点で登録している技能者数は約14.6万人、事業者数は約27万者に上り、着実に普及が進んでいる。この中でも先駆的に取り組む地域建設業として、埼玉県の小川工業、鹿児島県の福地建設の2社にCCUSの効果的な運用方法をはじめ、魅力ある職場環境の整備に向けた取り組みを聞いた。

適正処遇へ

働きやすい職場をつくる



就業履歴の蓄積にはキャリアリンクを活用

鹿児島県霧島市に本社を構える福地建設（福地茂穂代表取締役）は、CCUSの導入に早期から取り組み、現在は元請けとして手掛けるほぼ全ての工事に活用している。CCUS関係の事務作業などを支援する建設ディレクターは女性社員が活躍する職域として機能し、人材の採用・定着に寄与している。こうした取り組みの根底には「働きやすい職場をつくる」という思いがある。

直轄をはじめ公共土木工事を中心に手掛ける同社は、2018年

建設業振興基金が運用するCCUS認定アドバイザーにも早くから目を向け、第1弾の認定講習を受講した。アドバイザーを取得した工務課の山崎優さんはCCUSに関する業務の中心的役割を担い、協力会社の事業者登録や技能者登録を支援。既に協力会社の登録はおおむね完了し、現在は県内

核を担うのが、22年8月に立ち上げた管理本部DX事務局だ。主にデジタルツールの導入などで業務効率化を支援しており、CCUS関連では社内の環境整備を手掛ける。仙田氏はCCUSの全面活用に当たり「まずはCCUSを十分に知らない人に概要や運用方法を伝える教育と、運用に当たっての役割やフローを整理する部分から始めた」と振り返る。

当初からCCUSへの関心は高かったが、20年に国土交通省が公募した実証実験への参加は大きな転機となった。実験ではカードリーダー以外で技能者の就業履歴を蓄積する方法として、コムテックスが提供する「キャリアリンク」の有用性を検証。技能者が携帯電話から特定の番号に電話をかけるだけで現場の入退場が管理できるため、現場が広範な維持工事などを抱える同社にとって使い勝手が良く、コムテックスからのサポートもありCCUSの運用が一段と進んだ。

建設業振興基金が運用するCCUS認定アドバイザーにも早くから目を向け、第1弾の認定講習を受講した。アドバイザーを取得した工務課の山崎優さんはCCUSに関する業務の中心的役割を担い、協力会社の事業者登録や技能者登録を支援。既に協力会社の登録はおおむね完了し、現在は県内

